

にこにこ (面談資料編)

=言葉に関する困難を抱えた子ども達=

友達と楽しく遊んだり学習したりする上で、「言葉を使って伝える」ということは、とても大切なコミュニケーションの方法です。子ども達は、多くの人達とコミュニケーションをとり、その関わりの中で、様々な経験をし、たくさんのことを学びながら成長していきます。

しかし、子ども達の中には、話し方に特徴があるため聞き手に内容が伝わりにくく、人間関係づくりや学校生活に支障を来す子どももいます。そのまま放っておくと、話し方にこだわり、無口になったり、引け目を感じ情緒が不安定になったりする可能性も出てきます。

このように言葉に関する困難を抱えた子ども達には、その困難さを軽減するための指導に加え、保護者、教師など、子どもの成長に関わる側の理解と日常的な関わり方への配慮が必要になります。

適切な支援を受ければ改善するケースが少なくありません。西牛谷小学校には、言語学級があり、話し言葉に困難を抱えているお子さんを週3～5時間程度の通級で支援しています。



- 1 習慣的に特定の語音を誤って発音する (構音障害)
 - ・ある音を別の音に置き換えて発音する。「テミ (セミ)」「ダッパ (ラッパ)」
 - ・音の省略がある。「エミ (セミ)」「バナ (バナナ)」
 - ・発音の歪み (日本語の発音体系には無い発音) がある。
 - ・不要な音の付け加えがある。「ツミキリ (積木)」「ジンドウシャ (自動車)」
- 2 同年齢の子どもと比べ、全体的に言葉の遅れが見られる状態 (言語発達遅滞)
 - ・器質性の言語発達遅滞 (*聴覚障害), 知的障害, 自閉症, 脳性まひ, 中枢神経障害等に伴う言葉の遅れ
 - ・非器質性の言語発達遅滞
養育環境上の問題, 情緒的問題, 対人関係の問題等に起因する言葉の遅れ
- 3 言葉を話すとき、流暢に話せなくなる状態 (吃音)
 - ・初めの音や言葉を繰り返す「ぼ、ぼ、ぼくの・・・」「明日、明日、明日行くよ」
 - ・言葉がスムーズに出てこない「・・・先生と」
「さ・・・かな (さかな)」
 - ・音を引き伸ばす「ぼーくがね・・・」「お父さんのくーるまに乗って・・・」

- 4 生まれつき上顎や口蓋が裂けて口腔と鼻腔がつながっているため、話し言葉に必要な呼気が鼻から抜けたり、喉の奥で癖のある発音をしたりする状態 (口蓋裂)
- 5 後天的な脳の局所的破損により、それまで獲得していた言葉をコミュニケーションのために使用できなくなった状態 (失語症)



学習特性 (行動特性) を調べる検査

ご家庭でお子さんの様子を見ていて、<ひょっとして、文字を書くのが遅いのかな。間違えることも多いし・・・>と感じたら・・

「よく見て書きなさい。」「ちゃんと練習しないからだよ。」「はやく書きなさい。」「何やってたの。」などとお子さんに言っていますか？

一生懸命やろうとしているのにどうしてもみんなと同じようにできないとしたら、そう言われてしまうのは、お子さんがちょっとかわいそうですね。

=例 文字を習得するのに関わる力=

文字を習得するのに、繰り返し書くことはとても大切な練習です。でも、やみくもにそれだけを練習しても、お子さんの特性によっては、なかなか効果が上がらないこともあります。では、文字を習得するには、どんな力が影響するのでしょうか。ちょっと紹介します。

- 1 目で見て、形を捉える力
- 2 記号を捉える力 (文字, 地図, グラフなど記号化されたもの)
- 3 具体物を捉える力 (山, 川, 人, 学校, 鉛筆など目にそのまま映るもの)
- 4 目で見たことを覚える力
- 5 耳で聞いたことを覚える力
- 6 短時間にある程度の情報を記憶する力
- 7 長い期間、覚えたことを保つ力 (長い期間の記憶力)
- 8 処理の速さ

など、ざっと挙げてもこれぐらいあります。WISC (学習特性を調べる検査の1つ) では、これらの力の中で「どの力を強く持ち、どの力が弱いかがわかるのです。

特性に合わせた支援

上記の1～8の力がバランス良く身につけていると、文字を書くという学習がスムーズに進められますが・・・

多少の偏りがあっても進められるものの、しかし、20人に1～2人の割合でこの偏りが無視できないぐらい大きい子がいるのです。

力の弱いところをフォローして、力の強いところを使って学習するように支援していけば、効果的な文字の習得ができるようになります。

* 学習特性 (行動特性) を調べる検査は、WISCの他にも田中ビネー、構音検査など、何種類かがあります。

実施にあたっては、事前に保護者の方からお話をよくうかがって、お子さんの家庭での様子、学校での様子をあらかじめ捉え、実態に合った検査をすることが大切です。「子供のよりよい成長につながるように」「家庭での子育てや学校の支援に役立つように」検査結果をどう活かすかが問題だからです。

必要性や困り感に沿って実態に合ったものを実施しなくては意味のないものになってしまいます。

まずは、担任や担当者との相談がとても大切です。

気になる方は、遠慮なくご相談ください。
TEL 0280-98-0333 (西牛谷小)
相談窓口 浅川 秀之

